

2010年5月27日

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

URL <http://www.t-s-r.co.jp>

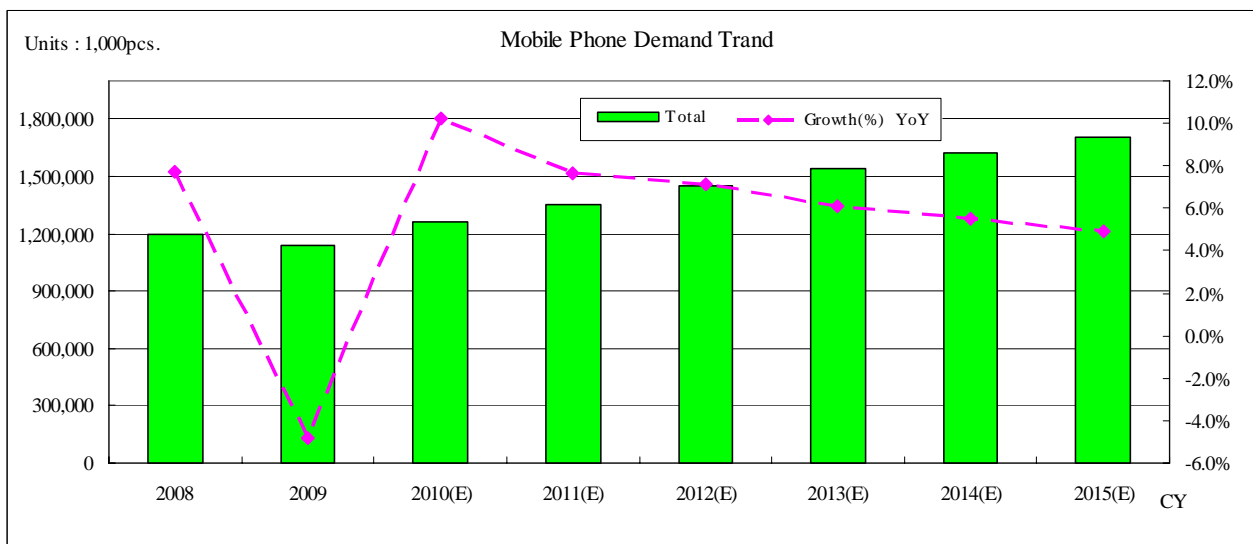
東京都千代田区岩本町 3-7-4 TSR ビル

代表取締役社長 藤田正雄

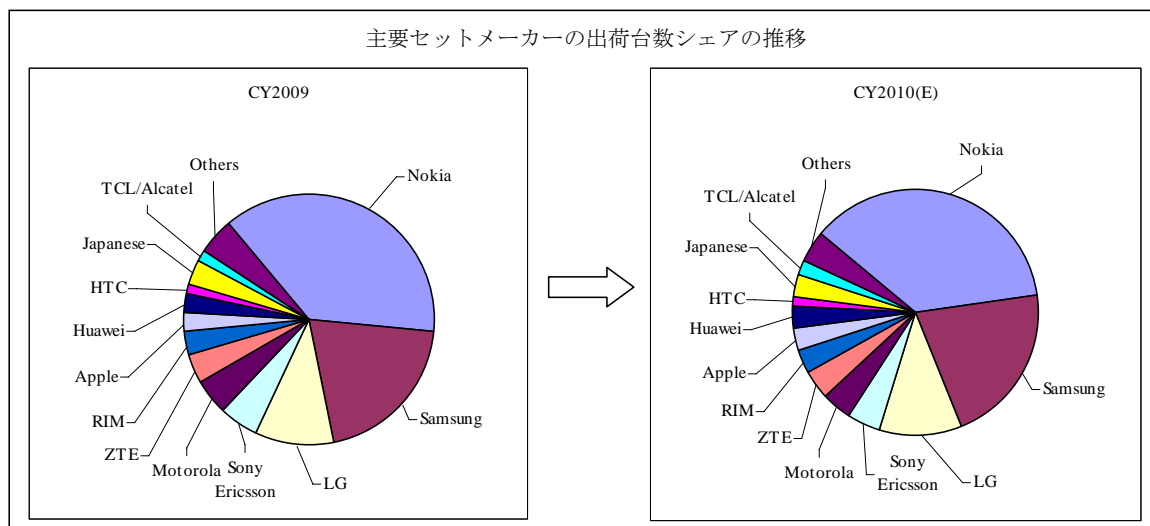
## 2010年携帯電話市場は主要セットメーカーの勢力図が変化

～市場成長率は10%を上回り再びプラスへと転じるとともに、ノン・ブランド携帯市場も拡大する～

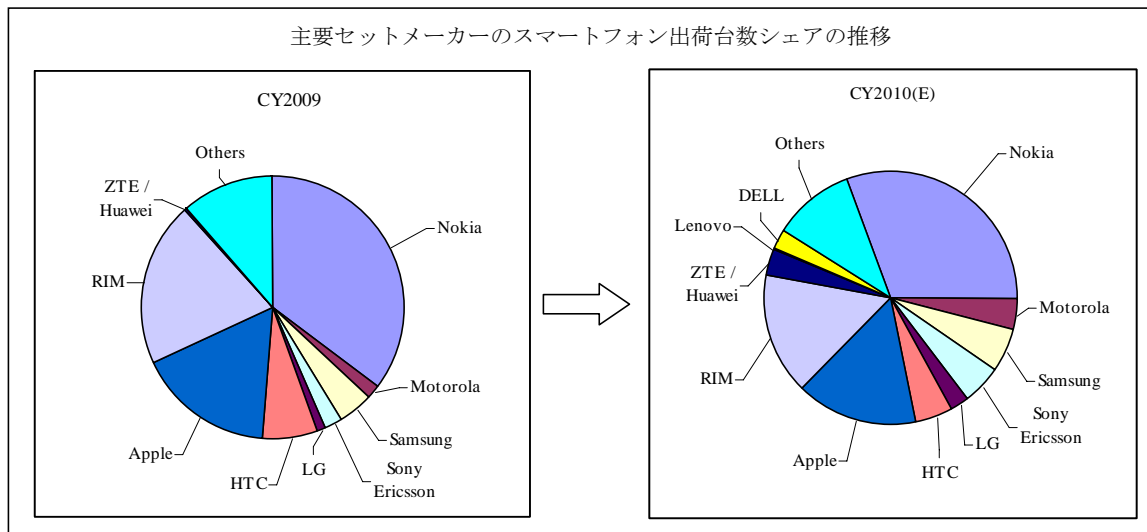
2009年の携帯電話市場は前年に起こった金融危機の影響を受けて対前年マイナス成長となったが、2010年は回復傾向を示し、再び10%を上回るプラス成長を遂げる見通しである。また、中華系のノン・ブランド携帯や山寨機(White Box)、コピー製品などの市場も膨れ上がり、2009年に引き続き2010年も2億台を大きく上回るものと見られる。市場がマイナス成長やプラス成長と大きな変動を起こしたことで、参入しているセットメーカーの勢力関係に変化をもたらした。



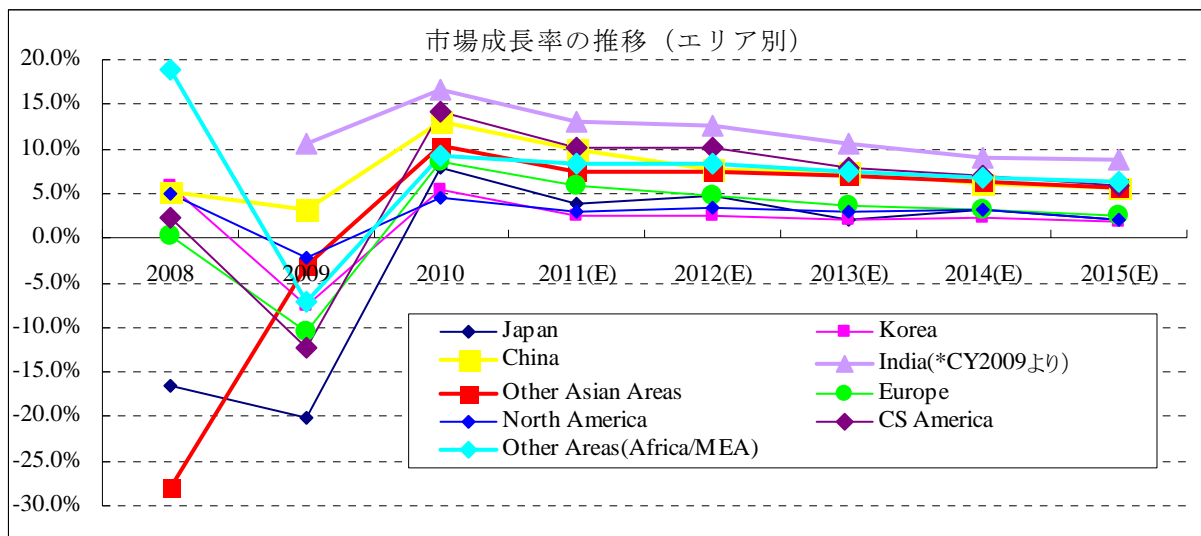
従来のトップ5と呼ばれるメーカーの中で Sony Ericsson や Motorola が出荷台数を落とす一方で、新興勢力の ZTE、Apple、RIM が年間4,000万台を上回る出荷を遂げるようになる。上位3社の Nokia、Samsung、LG のトップの3社が徐々に各自のポジションを固め始め、Sony Ericsson、Motorola、ZTE、Apple、RIM の5社が4位集団を形成する。さらにこの4位集団を TCL/Alcatel や HTC が追走している。今後、携帯電話市場は“トップ3”プラス5社という勢力構図に塗り変わっていく。



各社とも、今後の成長要因としてスマートフォンへの注力を挙げている。Apple や RIM、HTC などのスマートフォン専門メーカーに加え、Dell や Acer など PC メーカーの参入により競争が激化し始めるなかで、Nokia や LG、さらに ZTE や Huawei などが低価格スマートフォンの生産・販売に乗り出してきた。また Sony Ericsson や Motorola は、回復の切り札として Android スマートフォンを前面に掲げている。さらに Samsung が同市場における遅れを挽回すべく、独自 OS「Bada」を開発して同市場へ本格参入してきた。



エリア別の市場動向を見ていると、欧米などの成熟市場における成長率が鈍化している一方で、依然として中国市場が高い成長率を示しており、インド市場がその後を追っている。また、両国以外のアジア圏も、インドネシアやパキスタンなど人口1億人以上の国々に加え、フィリピンやタイ、ヴェトナムなどで高い需要が見込まれることから、今後の成長が期待できる。さらに、アフリカ市場では、徐々にインフラネットワークの敷設が進んできており、携帯電話の需要が高まっていくものと見込まれる。



上記リリースは『2010年移動体通信市場マーケティング総覧』(2010年5月発刊)の概要です。同資料は携帯電話市場を中心に扱った調査報告書であり、各エリア別の長期需要と各セットメーカーの事業動向やEMSを含めた生産動向、及び製品の主要機能トレンドを網羅しているとともに、主要エリアの各通信事業者の動向を取り扱っております。また、携帯電話以外にデータ通信カード、通信モジュール(M2Mネットワーク)、携帯電話基地局、さらにノートPCや電子書籍等のその他モバイル製品の市場概況も収録しております。

【リリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社テクノ・システム・リサーチ

第2グループ 戸波勝徳(tonami@t-s-r.co.jp) 武花勇一(takehana@t-s-r.co.jp)

TEL:03-3866-4505 / e-Mail:info@t-s-r.co.jp